

## 付録3 新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（鹿児島大学）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

### 大学回答欄

#### 【情報企画課】

令和3年度合格者よりノート型パソコンの購入を推奨しており、その中で、学術情報基盤センターとして、「Microsoft 365 Apps（旧Office 365 ProPlus）」の年間契約を行い、Office製品等を無償で利用出来るよう学習支援を行うとともに、IT相談等も随時受付対応した。

#### 【学生部】

令和2年度後期においてスクーリング期間を前半（10.1～10.14）、後半（12.10～12.25）にそれぞれ2週間設けて、特に学部1年次生を中心に対面授業、ゼミ活動等、直接教員からの教授・指導や、学生間の対話・交流等ができる取り組みを十分な感染症対策の下で行った。

#### 【学生部】

F D研修の一環として遠隔授業に関するアンケートから特に評価の高かった教員10人による「F D連続セミナー」をWeb会議形式で開催し、延べ181人の参加があり、オンライン授業で得た知見や経験の共有を図った。

#### 【法文学部】

・新年度開始前に学生に対してアンケートを行い、すべての学生の遠隔授業受講環境を調査した上で、受講環境の整っていない学生に対してはWifi教室を開放するなどして対応した（令和2年4月以降）。

・学部内に「授業遠隔化実施推進WG」を立ち上げ、遠隔授業の環境整備や遠隔授業用マニュアルの作成などを通して、教職員と学生に対して情報提供や技術的サポートを行い、スムーズな遠隔授業の導入と授業の質的向上を図った（令和2年4月以降）。

・感染防止対策の一環として、教室へのアクリル板の配備のほか、教室の窓に網戸を設置し、換気の改善を図った。

・国内外の新型コロナ感染拡大を踏まえて「海外異文化体験実習」（カナダの法と社会）の海外実習を中止する代わりに、カナダ・ヴィクトリア大学との間でオンラインによる授業と研修を実施した（令和2年2月）。なおこの授業は令和3年度後期も同大学との間でオンライン形式で実施の予定（令和4年2月）。

・同じく令和3年度後期の「海外異文化体験実習」（イスラームの社会と文化）について、海外実習の代わりに、イランのテヘラン大学 およびトルコのアンカラ大学と zoom を利用したオンラインによるグループワークや討論、プレゼンテーションなどに切り替えて授業を行う（令和3年10月以降）。

・社会学ゼミ（片桐資津子教授）は大学間学術交流協定校である湖南農業大学（中国湖南省長沙市）の学生などとZoomを使ってOnline国際交流ゼミを開催した（令和2年7月16日、令和3年1月21日、令和3年7月8日）。

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2020/07/post-1704.html>

[https://kadai-houbun.jp/seminar\\_info/210205-01/](https://kadai-houbun.jp/seminar_info/210205-01/)

[https://kadai-houbun.jp/seminar\\_info/210205-01/](https://kadai-houbun.jp/seminar_info/210205-01/)

#### 【教育学部】

根拠資料（令和3年度後期の事例）のように、令和2年度より、前期、後期のそれぞれにおいて、全学の授業等の実施方針をもとに、教育学部における授業等の実施方針を策定し、運用している。

**【理学部】**

全学の授業等の実施方針を基に、リアルタイム配信やmanabaの活用、オンデマンド配信授業などの遠隔授業を実施した。体調不良者には受講させず、欠席した場合でも不利益にならないようレポート等の代替措置を講じた。

**【工学部、理工学研究科】**

遠隔授業の実施に際しては、対面授業に相当する教育効果が得られるよう学生と教員が双方向でやり取りしながら授業を行うことに努め、授業時間外においては学習管理システムの個別指導機能やメールにより学生からの質問や問合せに随時対応することで、授業の双方向性を確保するようにした。

**【工学部、理工学研究科】**

対面授業の実施に際しては、体調不良者や持病がある等により感染に対する不安感の大きい学生から申し出があった場合に、個々の学生の状況に応じて遠隔形式での参加を認めたりレポート等の代替措置をとることとした。

**【工学部、理工学研究科】**

大人数に同一内容で教育する授業（専門基礎的な数学・物理等）は、教員による差をなくすためにオンライン（オンデマンド型）授業を活用した。また、専門基礎では、期末試験も統一して、学習成果を保証できるようにした。

**【工学部、理工学研究科】**

中規模授業や実験・実習などでは、2から3に分割して、対面とオンライン（中継型）授業を交互に実施し、対面授業が全てなくなることを避けた。

**【工学部、理工学研究科】**

海外から入国できない留学生に対しては遠隔授業で対応した。また、不正行為対策をとった上で、中間試験や期末試験をオンラインで筆記試験により実施した。

**【工学部、理工学研究科】**

遠隔で行った講義でも、レポートだけでは学習成果の保証ができないものについては、期末試験だけは対面により実施した。その際、複数教室を使うなどして学生間の間隔を十分とるなど、感染対策を十分に行った。

**【工学部、理工学研究科】**

学生の主体的な講義への参加を促すため、Zoomのブレイクアウトルーム等を使ったグループワークや、respon（クリッカーやリアルタイムアンケート）などを使った授業を試みている。また、LMSを使ったオンラインでのレポート提出と採点済答案の返却なども行い、可能な限り、学生とのコミュニケーションが失われないような工夫をした。

**【医学部医学科】**

令和2年度前期は、授業開始日が2週間繰り下げられたが、時間割を全体的に繰り下げて必要な授業時間を確保し、教育の質を担保した。

**【医学部医学科】**

発熱等の体調不良による授業欠席や濃厚接触者・PCR検査受検等に伴い自宅待機のために授業に出席できない学生への配慮として、全ての講義で対面授業実施と同時にZoomの遠隔授業を行い、自宅でも遠隔授業を受講できるようにした。

**【医学部保健学科】**

オンライン授業を実施することに伴い、保健学科にオンライン授業支援ワーキンググループを立ち上げ、オンライン授業の在り方の検討、データの整理・分析、教員へ支援やスキルアップを行い、対面授業と同等の教育効果を維持している。

#### 【医学部保健学科】

保健学科4年生の「チーム医療実習」は、コロナ禍の影響で予定していたへき地・離島を含めた地域医療機関での実習が計画通り実施できない状況であった。そこで、三島村の協力を頂き、保健学科（看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻）4年生の「チーム医療実習」では、離島住民のバーチャル家庭訪問を教材としたヘルスアセスメント教育をオンラインで実施した。

#### 【歯学部】

感染対策をしながら対面授業を実施した。対策としては教室の座席指定（一定の距離の確保及び感染者が出た場合の濃厚接触者特定のため）、教室を2室利用し1つの授業クラスを2分割（対面とリアルタイム配信）し密を避ける、清掃業者による除菌作業、透明アクリル板設置、手指消毒液を各講義室・実習室入口などに設置、学生も各自対策が行えるよう拭き取り用ペーパータオルの設置、LMS(manaba)を利用した学生の健康状態の把握、非接触型体温計の配置、換気扇設置・更新などによる講義室・実習室の換気機能の整備、入国できない留学生への授業配信等を行った。

#### 【水産学部】

実験科目については、三密回避策を図り、対面と遠隔方式を織り交ぜて実施している。対面方式の場合は、例えば、4人用実験台を2人で使用し、対面着席にならないように座席指定して、10人程度ずつになるように受講生を数組に分散し、時間差開講で換気しながら対面実施している。実験は、グループ作業が少なくなるように工夫し、一人作業の項目も設けている。遠隔方式の場合は、説明はZOOMでリアルタイム配信したり、TAの実験操作風景を動画撮影し、オンデマンド式でYouTube配信し、学生が閲覧する時間を設けている。実習科目は、フィールドでの実習の場合は三密回避に気を付けて実施している。室内での実習の場合は実験科目と同様に工夫して実施している。

#### 【医歯学総合研究科】

対面授業と遠隔授業のそれぞれの良い面を活かして併用したハイブリッド教育による授業を実施した。令和3年度前期においては、対面授業科目数213（96%）、遠隔授業科目数10（4%）であった。授業に関する質疑応答や大学からのお知らせなどは、manaba等を活用して学生への学修支援と情報提供を行った。

#### 【臨床心理学研究科】

演習科目については、可能な限り対面授業を継続し、学習の質の維持に努めた。感染防止対策として、授業前の検温、マスクの使用と手指消毒等を行ったほか、教室の机にアクリル板を設置したり、収容定員が多い大教室で概ね30分おきに換気を行いながら授業を実施したりする等の取組を行った。

#### 【臨床心理学研究科】

実習科目については、学内実習施設である附設心理臨床相談室を令和2年4月～同8月、及び、同11月～12月の間、緊急事態宣言や学内におけるクラスター発生等の影響により、一時的に閉室したが、その間を除いては通常の相談業務を継続し、学習の質の維持に努めた。また、相談室独自の感染防止対策を策定し、学生に周知徹底を促した。さらに、学生用の不織布マスクを購入した。

#### 【連合農学研究科】

連合農学研究科は佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学の3大学で構成されているため、学生は各構成大学の多地点遠隔講義システム（SINET）設置場所で講義を受講しているが、学生の入構が制限された構成大学もあったことから、BlueJeans（Web会議サービス）と連動させて学生が自宅でも受講できるように配慮した。

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

【総務課】

令和3年6月24日から学生・教職員等を対象とした「新型コロナワクチン職域接種」を開始し、さらに、医学系学部を持たない近隣大学・短大・専門学校等の学生・教職員へも接種を拡大し、延べ約23,200人に対しワクチン接種を行った。

【情報企画課】

新型コロナウイルス感染者が郡元キャンパスで発生し、サークル等でのクラスター発生によりキャンパス入構禁止措置を取った場合も含め、日曜日・祝祭日を除く日程で、学生の遠隔授業等支援のため、電話・メール等での対応や、端末室を開放し、PC非所持者等への支援を行った。

【学生部】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅にアルバイト収入が減少した学生、又は家計が急変した世帯の学生など生活要支援の状態にある学生に対し、緊急支援措置として返済を要しない支援金（学部学生及び修士課程学生に5万円、博士課程学生に10万円）を給付した。

【学生部】

令和3年6月24日から9月30日にかけて学生及び教職員を対象とした職域接種を行い、約75%の学生がワクチン接種を受け、コロナ感染による健康被害等のないように学生の生活環境の整備を行った。

【法文学部】

・「オンラインお悩み相談室」（法経社会学科地域社会コース・経済コース1年生対象）を開催し、学生からのさまざまな悩みを教員が聞き、対応した（令和2年6月28日）。

<https://kadai-houbun.jp/information/20200619online/>

・FD委員会主催のオンラインワークショップ「教員と学生の対話を通じて考える新型コロナ禍での学び」を開催し、教員と学生の相互理解を深めるとともに、新型コロナ感染拡大状況における学習・生活環境や授業改善について意見交換を行った（令和3年3月18日）。

<https://kadai-houbun.jp/information/210323-01/>

【教育学部】

遠隔授業を受講するためのWiFi接続を希望する学生に対し、教育学部内の空き講義室を開放している。

【教育学部】

従来、紙媒体で行っていた教務事項に関する各種の調査のうち、感染対策や学習支援の促進のために、一部の調査をmanabaによる調査に変更した。

【理学部】

空き講義室を、遠隔授業等で利用できるよう開放した。不織布マスクの着用を促し、着用を忘れた学生には不織布マスクを配布した。

【工学部、理工学研究科】

海外から入国できない留学生に対して、履修する授業で使用する教科書を発送した。教科書代は全学の留学生後援会で立て替えをし、送料は学部経費から出した。

【工学部、理工学研究科】

アドバイザーや学生相談員による学生の面談をZoomを用いて遠隔で行い、学習や生活上の悩みの相談を行った。

**【医学部医学科、医歯学総合研究科】**

遠隔授業の受講に必要な機器やネット環境が整っていない学生のために、遠隔授業受講用の講義室を常時設定し、学内でも遠隔授業を受講できるように整備した。

**【医学部保健学科】**

新型コロナウイルス感染症問題に関しては、迅速に対応する目的で、医学部学生生活委員会が中心となり、その下部組織として、保健学科教員（精神科医師、精神科看護：精神科臨床経験のある看護師）、医学科教員（精神科医2人）による「新型コロナウイルス感染症に問題に関連したメンタルヘルス相談窓口」を設置した。

**【医学部保健学科】**

相談に来るほどではないが、悶々としている学生は多いことが各教員から報告があったため、zoomを介した「遠隔授業」では、5～10分程度の休憩を取り、教員と学生で「雑談」など気分の転換を図ったり、zoomを利用して「グループ」に分けて、自己紹介や雑談を行った。

**【医学部保健学科】**

1年生の「孤立」が懸念されたため、後期の授業では、医学部保健学科は毎週火曜日を1年生（看護学専攻80人、理学療法学専攻20人、作業療法学専攻20人、計120人）を最優先で登校させ、「対面式」と「遠隔式」のハイブリッドで授業を行った。

**【臨床心理学研究科】**

研究科独自の新型コロナウイルス感染拡大防止対策を第2報まで発出し、周知徹底させた。また、学生が常時使用する院生室の机にアクリル板を設置したり、学生用の不織布マスクを大量に購入して、使用することを義務付けたりする等の取組を行なった。